



第20回上田八木・金融政策サーベイ(2018年6月)の結果について

～6月のMPM予想は全ての回答者が政策変更なしの見方。金利予想はどの年限も不変との見方が多い。「出口開始時期」は、「1年以上3年未満」の見方が減少(前回76%→今回61%)した一方、「3年以上」が増加した(前回21%→今回35%)。

2018年6月13日(水)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 全ての回答者が6月のMPMで政策変更なしの見方。
- 金利予想はどの年限も不変の見方が大半。
- 金融緩和からの「出口開始時期」は、「1年以上3年未満」の見方が減少(前回76%→今回61%)した一方、「3年以上」が増加した(前回21%→今回35%)。

【調査の概要】

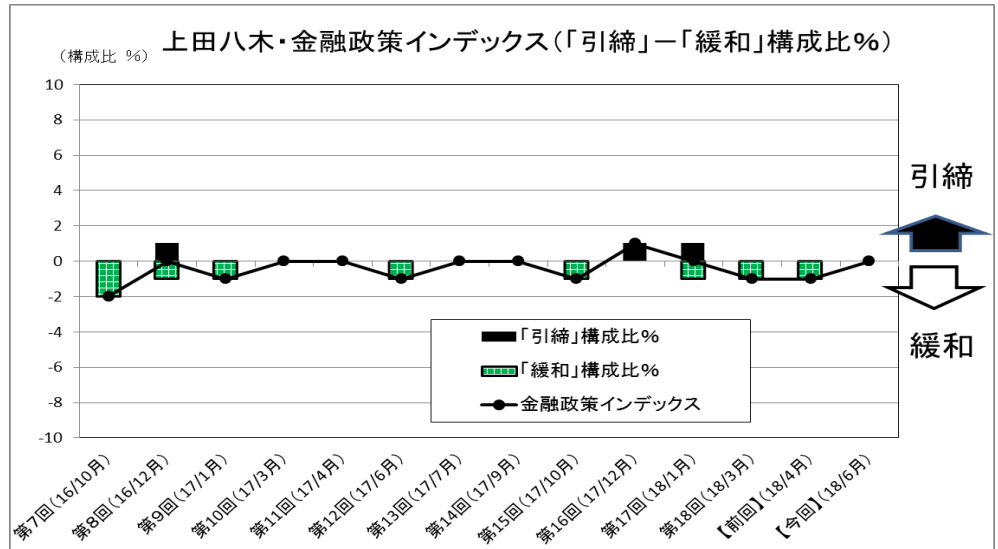
調査方法	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(193先)
調査方法	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2018年6月8日～12日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	91.7% (回答者数177先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

(Q1)日本銀行の次回の金融政策決定会合(6月14日～6月15日)における決定について

全ての回答者が「不変」の見方。

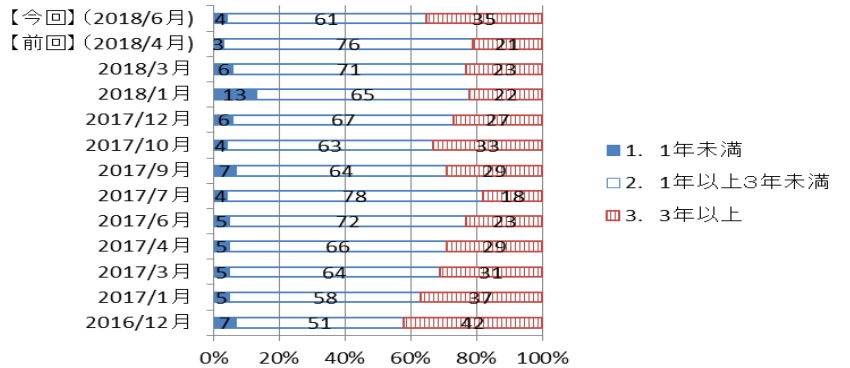
上田八木・金融政策インデックス(「引締」ー「緩和」構成比%)は、「0」(前回は▲1)だった。



(ご参考)

【今回13回目となる追加質問:Q5】現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は？

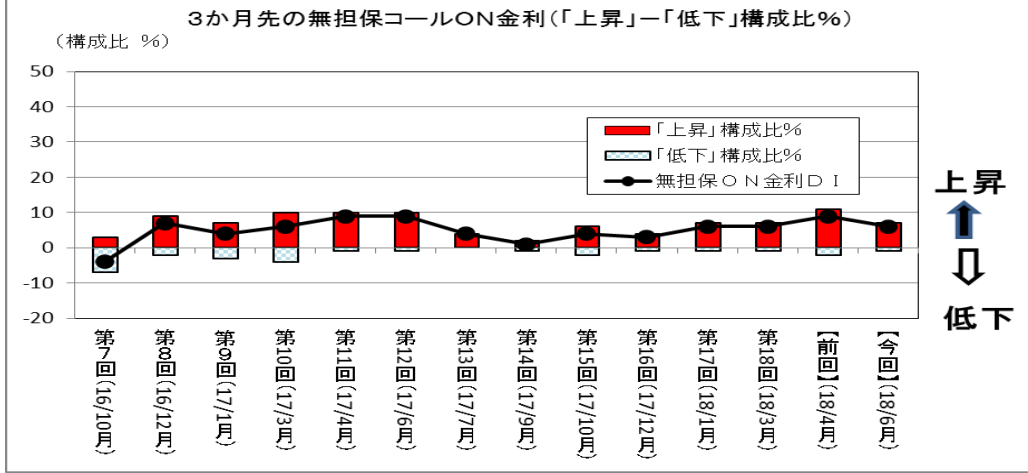
1年以上3年未満と回答する先が61%に減少(前回76%)し、3年以上が35%(前回21%)に増加。



(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の92%が「不変」と予想。1%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は7%だった。

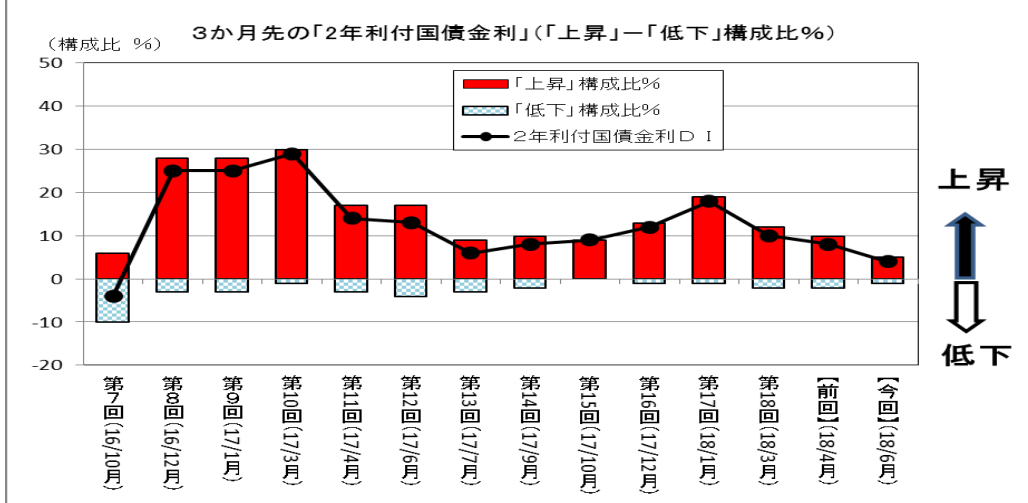
前回との比較では、「上昇」とみる先は▲4%ポイント(前回11%→今回7%)。「低下」とみる先は▲1%ポイント(前回2%→今回1%)。「不変」とみる先は+5%ポイント(前回87%→今回92%)。



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の94%が「不変」を予想。「低下」を予想する回答者1%。「上昇」を予想した先は5%であった。

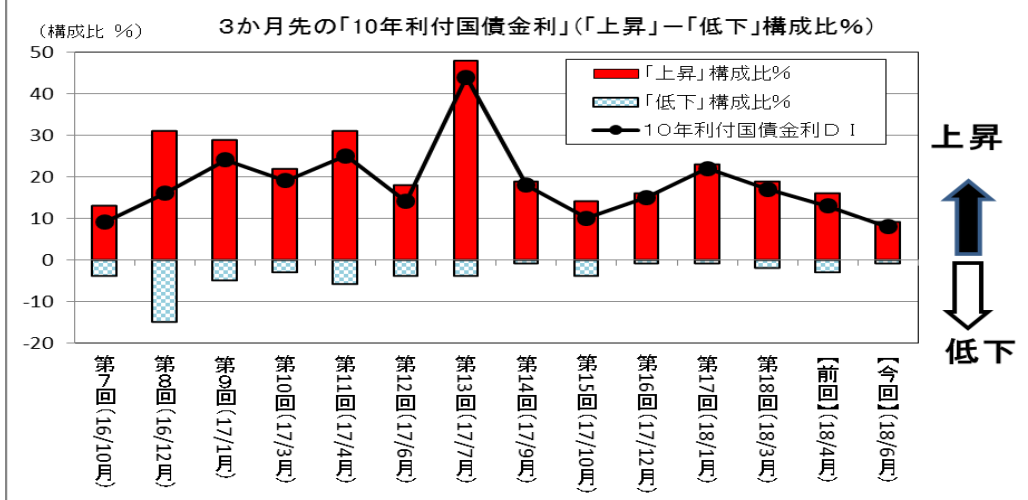
前回との比較では、「上昇」とみる先は▲5%ポイント(前回10%→今回5%)。「低下」とみる先は▲1%ポイント(前回2%→今回1%)。「不変」とみる先は+6%ポイント(前回88%→今回94%)。



(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の90%が「不変」を予想。1%が「低下」、「上昇」を予想した先は9%。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲7%ポイント(前回16%→今回9%)。「低下」とみる先は▲2%ポイント(前回3%→今回1%)。「不変」とみる先は+9%ポイント(前回81%→今回90%)。



【本調査に関する照会先】
企画部 島本、酒井 (電話 03-3272-0293)